

成田 歴史 玉手箱

●20回●

**歴史と伝統文化の
まち・成田。市内に
は、歴史ある文化財
が多数あります。**



思い出の開拓生活の記念アルバム
(新城タケ氏所蔵)

戦後の三里塚開拓

20年間の開拓生活を 記念のアルバムに



与世盛智郎さん

昭和44年3月6日、3年の歳月をかけ、ある人たちの20年間の記録をつづったアルバムが完成しました。それは、沖縄出身者の三里塚における開拓の歴史アルバムです。

敗戦まもない昭和20年11月、政府は、戦後の食糧増産と復員軍人・海外引揚者などの帰農を目的に未墾地の開放を積極的に行いました。当時、沖縄出身者は故郷がアメリカ軍に占領されたため帰郷が許されず困っていました。そんな彼らの窮状を見て立ち上がったのが沖縄県久米島出身で僧侶の与世盛智郎さんでした。宗教家の信念に基づき救済運動を提唱し、復員軍人・海外引揚者たちの生活の安定を求め東奔西走しているとき、成田に入植地があると教えられ、ここに沖縄出身者の開拓村を建設しようと決意したのでした。昭和21年3月6日は、入植を求めて初めて三里塚の地を踏んだ記念日です。そして同月16日には念願の入植許可があり、約50世帯100人が天浪地区で開拓生活の一步を踏み出しました。

開拓生活の第一歩がスタートした馬小屋の前で記念撮影
(上江洲智昭氏所蔵)



『千葉県戦後開拓史』には入植当時の様子について次のような手記が残されています。

入植者は2百余坪の御料牧場の馬小屋を借り受け、(略)名を沖縄農場とした。不慣れな手つきで重い開墾鋤を振り上げ、牧草を根ごととはがし取り一坪一坪畑をいっていった。作物が食糧になるまでの期間は、持ち物を金に換えて米やサツマイモを求めるといふ竹の子生活が続いた。

入植から20年後、開拓生活の記録を残そうとアルバムの作成事業が企画され、収集した写真は4千枚を超えました。完成したアルバムには、入植当時の写真、成田空港が三里塚に決定した昭和41年に残っていた32家族全員の写真、三里塚の風景、行事スナップなど約130点が収められています。開拓時代過ごした場所は空港に変わりましたが、開拓二世が「同郷会」を結成し、沖縄出身者の結びつきは今も強く残っています。

編集後記

ことしも、もうすぐ申告の季節。みなさんはどんな申告をされていますか。サラリーマンだと申告にあまり関心はないかも知れませんが、ちょっとした知識があれば得をすることもあります。そんな訳で、本号の3ページは還付申告の「自書説明会」についてのお知らせです。税の申告と聞いただけで頭が痛くなりそうですが、この申告に限っては、納めた税

金が戻ってくるというありがたいもの。しかも「自書説明会」では、その場で申告書を受け付けてもらえるとのこと。広報紙を見て該当すると思う人はぜひ会場へお出かけください。結婚などで退社された奥さんなども申告すると税金が戻るケースがたくさんあります。税務署か市の税務課へ早めに相談してみたいかがでしょうか。申告も相談も早めが一番です。